

これならわかるぜ！

ためぐち漢文

——漢文の構造をわかりやすく知りたい君へ—— 漢文の句式編

【第9回】疑問（その他の疑問代詞）

1. 疑問代詞「誰」の用法

疑問文で用いられる疑問代詞の代表格は前回学習した「何」だけど、もちろん他にもある。今日は、それらを紹介しよう。

今回のトップバッターは「誰」だな。

まず読み方に注意してくれ、「たれ」だよ。「だれ」と濁っては読まないんだ。

「誰」は、人物を問う疑問代詞で、主語（だれが）・述語（誰か）・目的語（誰を）・連体修飾語（誰の）で用いられる。

誰^カ教^{ムル}爾^ニ為^ス此^ノ言^ヲ。

▼誰^{たれ}か爾^{なんぢ}をして此^この言^{げん}を為^なさしむる。

▽だれがおまえにこのことは（＝歌）を言わせたのか。（＝だれがおまえにこの歌を教えたのか。）

これは「誰」が主語として用いられている例だ。

「何」と同じく、主語の場合は、語順の変更はないよ。

主語で用いられる時は「誰^カ」と「か」を送って読むんだよ。

誰^カ加^{フル}衣^ヲ者^ヲ。

▼誰^{たれ}か衣^{ころも}を加^{くは}ふる者^{もの}ぞ。

▽誰^{たれ}が（私に）衣^{ころも}をかけたのか。

これも「誰」が主語として用いられている例。

ただし、これは「誰^カく者^{スル}者^ヲ」（▼誰^{たれ}かくする者^{もの}ぞ）という固定形式だ。

この形については、「者」が疑問の語気詞だと中国では説かれて、「誰^カくするか」だとされてるけど、ためぐち先生は違うと思うんだな。

これはやっぱり「誰^カくするものか」という意味で、それを「もの」を「の」に置き換えて、「誰^カくするものか」という訳せばいいんだと思う。

追^し我^わ者^{もの}誰^{たれ}也。

▼我^{われ}を追^おふ者^{もの}は、誰^{たれ}ぞや。

▽私を追うものは、だれか。

この「誰」は、述語として用いられている例、その場合、右の例のように文末に語気詞「也」「乎」を伴うことがある。

「誰^し也」(▼誰^{たれ}ぞや)なら「誰^{たれ}だ?」、「誰^し乎」なら「誰^{たれ}か?」ぐらいの語気の違いがあるかな。どの場合も、「誰か」って訳せばいいけどな。

述語として用いられる場合も、語順の変更はもちろんない。

述語で用いられる場合は、語気詞を「や」と読み、「誰」が単独で用いられる時は「ソ」または「ソヤ」を補って読むのが普通だね。

子^ハ誰^ア師^ト。

▼子^し誰^{たれ}をか師^しとする。

▽あなたはだれを師(＝先生)とするのか。

これは「誰」が目的語として用いられている例だ。

この場合は、目的語「誰」が疑問代詞だから、述語の前に倒置する。

「何」の時に言ったように、これはほとんどの例がそうだというだけで、例外はもちろんあるんだぜ。

誰^カ家^カ玉^{タマ}笛^{フエ}暗^カ飛^{ハス}声^{コエ}。

▼誰^たが家^いの玉^ぎ笛^{ふて}ぞ暗^{あん}に声^{こゑ}を飛^とばす。

▽だれの家の玉笛であろうか暗闇の中に音色が聞こえてくる。

この「誰」は、名詞を修飾する連体修飾語として用いられている例。

ここでは名詞「家」を連体修飾しているんだね。

「誰の」という意味を表す場合、読み方は「たが」もしくは「たれノ」と読むんだ。

そもそも「たれ」というのは、日本語では不定称の人代名詞なんだが、「た」も同じ不定称の人代名詞だよ。

ただな、「たれ」に比べて「た」は独立性が弱くて、単独では用いられずに、格助詞の「が」を伴って、「たが」(だれの)の形で用いられるのが普通なんだ。

係助詞「ぞ」と同じの「そ」を伴って、「たそ」(だれか)とも言っただが、こちらの場合は、漢文では

「たれぞ」と読むんだね。

いいかい、もう一度おさえるぞ！ 「誰」は通常は「たれ」と読むが、「だれの」という場合は「たが」と読むんだよ。

◎ポイント！…疑問代詞「誰」は、人物を問う。濁らず「たれ」と読む。

誰^カ A^{スル}

▼誰^{たれ}がAする。

∴「誰」は主語

▽誰^{たれ}がAするのか。

・「誰^カ A^{スル}者^シ」

（▼誰^{たれ}がAする者ぞ）の形で、「誰^{たれ}がAするのか」という意味を表す。

A^ハ 誰^{ジャ}・

A^ハ 誰^{ジャ}也。

▼Aは、誰^{たれ}ぞや。

∴「誰」は述語

▽Aは、誰^{たれ}か。

誰^{タカ} A^{スル}

▼誰^{たれ}をかAする。

∴「誰」は目的語

▽誰^{たれ}をAするか。

・通常は「誰」を述語の前に倒置する。

誰^カ A・誰^カ A

▼誰^{たれ}がA・誰^{たれ}のA

∴「誰」は連体修飾語

▽誰^{たれ}のA

2. 疑問代詞「誰」を前置詞と共に用いる用法

疑問代詞「誰」は、前置詞「与」（と）や「為」（のために）と共に用いられることがある。

というより、正確には「誰」が前置詞「与」や「為」の目的語で、「与」前置詞句、「為」前置詞句を構成する形という方が、正確な言い方になるね。

まずは、「誰」が「与」の目的語となつて、「与」前置詞句を構成すると、「誰と」という意味になる。この場合、「誰」は疑問代詞だから前置詞の前に倒置されるんだ。

寡人万歳千秋之後、誰^ト与^ニ樂^ム此^ニ矣

▼寡人万歳千秋の後、誰と与にか此を楽しまん。

▽私がこの世を去つて後、（おまえは）だれとこれを楽しむのであろうか。

前置詞は、後に名詞や名詞句を目的語にとって前置詞句を構成するんだつたよね。そして、述語の前に置かれた時は副詞のように連用修飾するんだ。覚えてるかい？この例の「誰_ニ与_ニ」は、「与」前置詞句本来の語順としては「与_ニ誰_ト」となるよね。でも、前置詞の目的語が疑問代詞「誰」だから、前置詞の前に倒置されて、これがむしろ普通の語順になるんだ。

なぜなら、前置詞ももともとは動詞だからだよ。

「与」は本来「と」と読むべき語だから「たれと」と読みたいところだが、訓読の習慣としてこのように読み慣わしているんだ。

次に、「誰」が「為」の目的語となつて、「為」前置詞句を構成すると、「誰のために」という意味になる。

この場合も、「誰」は疑問代詞だから前置詞の前に倒置されるんだよ。

ただ、この「誰_ニ為_ニ」（▼誰が為にか）は、圧倒的に反語文で用いられるんだ。

つまり、「誰のためにくしようか、いや、誰のためにもくしない」だね。

誰_ニ為_ニ之_ヲ

▼誰が為にか之を為さん。

▽だれのためにこれをしようか。

この例は疑問文ではなく「してやる人などいない」という意味の反語文。

でも、「誰」が前置詞「為」と共に用いられる形式として、ここで取りあげておきたい。

この場合、普通は「たがためニカ」と読むんだ、「たれノためニ」って読んだっていいわけなんだけどね。目的語「誰」が疑問代詞だから、前置詞「為」の前に倒置されてるのを確認してくれよ。

ただし「為_ニ誰_ニ」という本来の語順で用いることだってあるから、思い込みは厳禁だけどな。

ところで、この「誰_ニ為_ニ」は、「か」をはずして「誰が為に」と読むことがある。

「誰がために」といえば、昔、アーネスト・ヘミングウェイの小説『For Whom the Bell Tolls』がアメリカで映画化されて、日本では『誰がために鐘は鳴る』として公開されたんだ。

ゲイリー・クーパーとイングリッド・バーグマン主演の名画だったんだが… え？そんなひと聞いたことがないって？ まあ、1943年の映画だからなあ… でも、このイングリッド／バーグマンがこれまた超美

人で… え？もういいって？（しょぼん…）

さて、見かけ上「誰為」の形をとっているからといって、いつも「誰為」だと即断するのは禁物で、「誰為」（▽誰がををするのか）の意味の場合の方がむしろ多い。

また、「誰為A B」（▽誰がAのためにBするのか）って場合もある。

これらは単に「誰」が主語として用いられているだけだね。

でも、この場合は「」や「A」は名詞だし、「誰為」の場合には後に動詞が来るから、見分けは付くんだぜ。

◎ポイント…疑問代詞「誰」が前置詞「与」、「為」の目的語となって前置詞句を構成し、「誰と」、「誰のために」という意味を表す。

誰_ト与_ニA_{スル}
▼誰と与にかAする。

▽誰とAするか。

誰_ガ為_ニA_{スル}
▼誰が為にかAする。

▽誰のためにAするか。

・通常は「誰」を前置詞の前に倒置する。

3. 疑問代詞「孰」の用法

君らにはちよつと見慣れない漢字かもしれないが、「孰」も疑問代詞で、人物を問う「誰」の意味を表したり、「どれ・どちら」という比較・選択の意味を表すんだ。

孰_カ能_ク一_ニ之_ヲ

▼孰か能く之を一にせん。

▽だれがこれ（＝天下）を統一できるだろうか。

「孰」はここでは「だれが」と人物を問い、主語として用いられてる。

「だれが（ゝか）」という意味だから、「孰」と読むんだ。これも「だれ」と濁って読んだりはいない

から、注意！

この「だれ」の意が、疑問代詞「孰」のもともとの意味なんだよ。

孰^ヲ欲^{スル}立^{テント}也。

▼孰^{たれ}をか立^たてんと欲^{ほつ}するや。

▽だれを（太子に）立てようと思いますか。

この「孰」も「だれ」の意味。

ここでは目的語として用いられてる。

ということは？ そう、疑問代詞が目的語になるから、述語「欲^{スル}立^{テント}」の前に置かれるわけだね。

右の例でもそうなんだが、「だれを太子に立てようか」というのは、たとえば2人候補者がいる中の「どちらを」とも、複数いる中で、「どの人を」という意味とも解せるだろ？

つまり、「だれ」を基本義とする「孰」は、そこから派生して、「どちら」「どれ」という複数のものの比較や選択を表すようにもなったのさ。

師^ト与^レ商^也、孰^レ賢^{ナル}。

▼師^しと商^{しょう}と、孰^{いづい}れか賢^{けん}なる。

▽師（＝孔子の弟子、子張）と商（＝子夏）とは、どちらがすぐれていますか。

ここでは比較選択の対象を「師^ト与^レ商^也」（子張と子夏と）という主題主語の形で示して、その「どちらがすぐれているか」と主述述語の形で問いかけてるんだ。

この場合、「だれが」ではなくて、2人のうちの「どちらが（くか）」の意味だから、「孰^レ」と読むんだ。

向^コ三賢、孰^レ愈^カ。

▼向^きの三賢^{さんけん}、孰^{いづい}れか愈^{よき}。

▽さきほどの三人の賢者は、どなたが（もっとも）すぐれておられますか。

この例は、「向^コ三賢」（さきほどの三人の賢者）が主題主語だ。

その中のだれがもっともすぐれているかを問うているわけ。

「どの人が」という意味だから、「孰^レ」と読んだけど、「3人の中でだれが」と解しても、別におかし

くないよな？

だから、この例の場合、「孰^{たれ}愈^レル」と訓読したってかまわないし、実際そう読まれることもあるぜ。

◎ポイント！…疑問代詞「孰」は人物を問い、「だれ」の意味で用いられる。また、比較・選択の意味を表し、「どちら・どれ」という意味を表すこともある。

孰^{たれ}か^{スル} A。

▼孰^{たれ}か A する。

▽誰^{たれ}が A するのか。

孰^しれ^カ A^{ナル}。

▼孰^しれ^カか A なる。

▽どちらが A であるか。 ・ どれが A であるか。

「孰」が比較・選択を表すものとしては、「与」「若」と組み合わせられて、「孰^い与^ニ」「孰^い若^ニ」という形をとるものがあるんだが、それについては、また「比較の形」の講義で説明しよう。

4. 疑問代詞「安」の用法

「安」も、疑問文や反語文でよく用いられる疑問代詞だよ。

「安」は「どこに・どこで」と場所を問うのが基本で、そこから「どなた・どちら」と人物や事物を問うたり、場所の義を失って、単に「なぜ・どうして」という原因・理由を問うたりする。

まず場所を問う場合、「いづくにか」と読む。

これは「どこに（〜か）」を日本語の古語で表現したものさ。

「いづく」は「いづこ」の古い形なんだね。

沛公安^{いづこ}在^ル。

▼沛公安^{いづこ}くにか在^ある。

▽沛公はどこにいるのか。

この「安^{いづこ}」は場所を問い、述語「在^ル」の目的語よね。

だから、述語「在^ル」の前に置かれてるんだ。

安^{アノ}忠^{チュウ}、忠^{チュウ}王^{オウ}。安^{アノ}信^{シン}、信^{シン}賞^{ショウ}。

▼安^{アノ}くにか忠^{チュウ}なる。王^{オウ}に忠^{チュウ}なれ。安^{アノ}くにか信^{シン}なる。賞^{ショウ}に信^{シン}なれ。

▽だれに忠を尽くすのか、王に忠を尽くせ。なにに信を守るのか、賞に信を守れ。

これは、「安」が人物や事物を問い、目的語として用いられている例。

ここでは「安^{アノ}忠^{チュウ}」の「安^{アノ}」は状況的に人物を問い、「安^{アノ}信^{シン}」の方は事物を問うていると考えるべきかな。

でも、「だれに」「なにに」と訳しはしたけど、「どちらに」が近いかもしれん。

このように「安」が人物や事物を問う場合も、「いづくにか」と読むんだ。

次は、「安」が「なぜ・どうして」という意味を表す用法だよ。

君安^{アノ}与^ヨ項伯^{キョウハク}有^{アル}故^コ。

▼君安^{アノ}くんぞ項伯^{キョウハク}と故^コ有^{アル}る。

▽あなたは どうして 項伯と交友があるのか。

この「安」は原因や理由を問い、「なぜ・どうして」という意味で述語を連用修飾するんだ。

「なぜ」だから、代詞じゃなく疑問副詞とする説もある、その方が我々には理解しやすいかな。

原因や理由を問う「安」は、「いづくんぞ」と読む。

「いづくんぞ」は、「いづくにぞ」の撥音便だ。

「いづくにぞ」自体は「どこに」の意味だけど、場所の意味は薄らいで、「なぜ・どうして」の意で用いられる。

でも、「なんぞ」と読まず、「いづくんぞ」と訓じたのは、昔の日本人は「どこに項伯と交友する縁があるのか」ぐらいに捉えていたのかもしれない。

◎ポイント……疑問代詞「安」は場所を問い、「どこに・どこで」の意味で用いられる。また、原因・理由を問うこともある。それぞれ読み方が違うので注意。

安^{アノ} A^{オノ}

▼安^{アノ}くにか A する。

…場所を問う

▽どこに A するのか。・どこで A するのか。

安^{アン} A^{○スル}

▼安^{あん}くんぞ A^{○スル}する。

…原因・理由を問う

▽どうして A^{○スル}するのか。

5. 疑問代詞「焉」の用法

疑問代詞「焉」も場所や手段、原因・理由を問う。

公^コ将^ニ焉^ニ之^ニカ^{○ト}

▼公^{こう}将^{しょう}に焉^{いづ}くにか之^{これ}かんとする。

▽わが君はどこにいらっしゃるのですか。

この「焉」は場所を問うてるね。

述語動詞「之」の目的語が疑問代詞「焉」だから、倒置されてるってところも確認しといてくれよ。

「焉」が場所を問う場合は、「安」と同様に「いづクニカ」と読むんだよ。

仲^{チュウ}尼^ニ焉^ニ学^{○ベシ}

▼仲^{ちゅう}尼^に焉^{いづ}くにか学^{まな}べる。

▽仲尼（＝孔子）はだれに学んだのですか。

この「焉」は、文意から見て、人物や事物を問うと判断されるね。

でも、「だれに」というより「どなたに・どちらに」という感じだろ？

もともとは場所を問う働きからの用法だと思っよ。

焉^ニ知^ニ賢^ニ才^ニ而^ニ拳^{○ベシ}之^ニ

▼焉^{いづ}くんぞ賢^{けん}才^{さい}を知^しりて之^{これ}を拳^こぐる。

▽どのようにして才能あるものを見つけて採用するのですか。

この「焉」は、手段・方法を問うて「どのようにして」という意味を表す。

この場合は「いづクンゾ」と読むんだ。

「焉」は、原因・理由を問うこともあるんだが、これは疑問というよりも、「どうして〜か」と問いかける形で、もっぱら反語の用法で用いられる。

反語の講義の時に取り上げるけど、1つ例を挙げておこう。

禍福之所自来、衆人以爲命。焉不知其所由。

▼禍福の自りて来たる所は、衆人以て命と爲す。焉くんぞ其の由る所を知らざる。

▽禍福の訪れる事情は、人びとは天命だと考えている。どうしてその由来（が自ら招いたことによること）を知らないのだろう。

これだって、疑問のように訳しはしたけど、「どうしてその由来を知らないのだろう、当然知るべきであるのに」というニュアンスがこもるよね。

このように、「焉」が「なぜ・どうして」という意味を表す時は、ほぼ反語を表すと考えていいね。

実際問題、このためぐち先生は、疑問以外に考えようのない例を探しまくったけど、見つからないんだから。

ないと言わんが、ほとんどが反語と言い切つていいと思うね。

◎ポイント……疑問代詞「焉」は場所を問い、「どこに・どこで」の意味で用いられる。また、「どのようにして」と手段を問うこともある。原因・理由を問うこともあるが、その場合は反語で用いられていると考えてよい。

焉^{ニカ}
A^{スル}

▼焉^{ニカ}くにかAする。

…場所を問う

▽どこにAするのか。・どこでAするのか。

焉^{ニカ}
A^{スル}

▼焉^{ニカ}くんぞAする。

…手段を問う

▽どのようにしてAするのか。

焉^{ニカ}
A^{スル}

▼焉^{ニカ}くんぞAする。

…原因・理由を問う

▽どうしてAするのか。

・原因・理由を問う場合、右のように読まれていても、反語の意味を表すのが普通である。

6. その他の疑問代詞

「何」や「安」「焉」以外にも、同様の意味を表す疑問代詞はけっこうたくさんある。

「奚」や「胡」「曷」は、「何」と同じと考えていいし、読み方も「なんゾ」などと読むね。

「惡」や「烏」は、「安」と同様に用いられて、「いづクンゾ」と読む。

ただし、「惡」「烏」は、「なんゾ」と読まれているのを見たことがある。

いくつか例を挙げておこうかな。

奚亡之。

▼奚ぞ之を亡ふ。

▽どうしてこれ（＝羊）を逃がしてしまったのか。

これは「奚」が「何」と同様に用いられてる例だね。

事物（なに）や場所（どこ）、原因理由（なぜ）、状態状況（どんな）などを問う疑問代詞だよ。

この例の場合は、原因理由を問うて、「なぜ・どうして」という意味を表してるんだ。

不得意、胡不去乎。

▼意を得ざるに、胡ぞ去らざるや。

▽（夫に疎んじられ）思いが満たされないのに、どうして（夫のものを）去らないのですか。

これは「胡」が「何」と同様に用いられる例。

人物（だれ）や事物（なに）、原因理由（なぜ）、状況状態（どんな）、選択（どれ）などを問う疑問代詞だ。

この例では原因理由を問い、「なぜ」という意味を表しているんだね。

曷虐朕民。

▼曷ぞ朕が民を虐ぐる。

▽どうして私の民を虐げるのか。

この「曷」は、原因理由を問うてる。「なぜ・どうして」という意味だ。

これら「奚」「胡」「曷」は、理由を問うて「なんゾ」と読む場合もあれば、場所を問うて「いづレ」とか「いづく」と読まれることもあるし、事物を問えば「なに」と読む。要するに、「何」と同様に考えればいいわけだ。

それと大事なことを1つ、「何」が前置詞と共に用いられて、「何_{なに}以_{もつ}」(▽どうして・何を用いて・何を理由に)・「何_{なん}為_{すレ}」(▽何のために・どうして)という形をとるのと同じく、これらの疑問代詞も、「奚_{なん}以_{もつ}」「胡_{なん}以_{もつ}」「曷_{なん}以_{もつ}」という形をとったり、「奚_{なん}為_{すレ}」「胡_{なん}為_{すレ}」「曷_{なん}為_{すレ}」の形をとることもある。

難しく考える必要はないよ、要するに「何_{なん}以_{もつ}」「何_{なん}為_{すレ}」とおんなじだからね。

悪_{アク}得_{トク}之_シ。

▼悪_{アク}くにか_ニ之_シを得_スたる。

▽どこでこれを得たのか。

「悪_{アク}」は、「安_{クニカ}」と同様に、場所(どこ)や方式(どのようにして)を問う疑問代詞だ。

ここでは場所を問い、「どこで」という意味を表している。

「烏_ウ」も「焉_ニ」と同様に用いられるけど、「どうして」と訳して、これももっぱら反語で用いられるんだ。

さて、これで代表的な疑問代詞は、一通り説明したつもりだよ。

覚えなきゃならないことが色々あって、君たちもお気の毒って感じだけど、大切なのは構造を理解した上で、読み慣れることだね。

たくさん漢文を読んで、「あ、これは前に習ったぞー」の繰り返しで、少しずつ身についてくるんだ。習うより慣れるともいうじゃないか、がんばって！

今回は、その他の疑問の形について補足するからね。

ここまでちゃんと復習しとけよ！